



日進北小だより

平成31年4月26日

第2号

TEL 048-663-1842

<http://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp>

学校教育目標

心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する

コミュニケーション

校長 宇佐見 弘幸

新年度が始まって、三週間が過ぎようとしています。先週4月17日（水）からは、一年生の給食が始まりました。教室を見に行くと、どの教室でも落ち着いて食事をしています。準備があまりにも順調なので、聞いてみると二年生が、準備のお手伝いに来てくれているのだそうです。教えてもらう一年生にとっても、教えに行く二年生にとっても価値ある活動だと思いました。

先日、久しぶりにゆっくりとした日曜日をむかえたので、妻とともに自宅付近の芝川の土手を散歩しました。菜の花がきれいに咲いている中をツバメが元気に飛んでいきました。水面すれすれを飛んだかと思えば、角度を変えて急上昇したり急降下したり素早い飛び方に感心してしまいました。調べてみるとツバメは大変に母性愛が強い動物のようです。軒下などの外敵に襲われにくいところに巣を作るツバメは、一度に五〜七個の卵を産みます。卵からかえったひなたちは、成長するにつれて巣から体を出して、元気にえさをねだります。母ツバメは、このひなたちのために一生懸命にえさを運びます。一羽につき、一日に百回以上運ぶこともあります。母ツバメは、ひなが巣立つまでの約三週間、一日も欠かさずにえさ運びを行います。想像を絶する回数を往復することになります。ところで、ツバメやその他の野鳥のひなが巣から落ちてしまっていることがあります。これらのひなに人間が親鳥の代わりのようにえさをきちんと与えても、成長は芳しくなく、巣立ちも大幅に遅れてしまうそうです。その理由はいろいろあるようですが、ある研究によるとどうやらコミュニケーションの差が考えられているようです。ひなはただえさをもらっているように見えますが、もらっているのはえさだけではありません。えさをもらうたびに、親鳥から声をかけてもらい愛情を受け、励ましてもらっているのです。だから早く大きくなるし、早く自立できるのだと考えられているのだそうです。

人の子育ても同じようなことがいえるのではないのでしょうか。子を育てるということは、楽しいことばかりが起きるとは限りません。時には、子の行動が親の思い通りにならないこともあるでしょう。そんな時に大切なのは、愛情なのではないのでしょうか。子にかける言葉や態度の中に愛情がこもっていれば、正しい道を示すことになり、成長への励ましになります。学校でも家庭でもこのコミュニケーションを大切にしていかなければならないと思います。

明日からは史上初という十連休です。連休明けには「令和」の時代になっています。新年度が始まったばかりのこの時期、お子さんは期待や不安、いろいろな思いをもっています。毎年、連休の前後には、お子さんの心が大きく揺れ動くといわれています。学校でも全教職員でお子さんの変化を見逃さないようにしていきます。ご家庭でも、お子さんの様子を見守っていただけますようお願いいたします。困ったとき、心配なときにはぜひご相談ください。一人ひとりのお子さんにとって、最善の方法を一緒に考えていきたいと思っています。